

Weekly コラム

平成 29 年 8 月 1 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

「進化する眼鏡」

人間は五感を通して環境を認識していますが、その内の 87% を視覚情報から得ており、次いで聴覚 7%、触覚 3%、嗅覚 2%、味覚 1% となっています。ただ視力は人によって差があり、その差を埋めてくれる道具の 1 つが眼鏡です。

アジア人の眼鏡比率は欧米人よりも高く、日本も眼鏡人口 6000 万人の眼鏡大国ですが、眼鏡の発祥は 13 世紀中頃のガラス製造技術が進んでいたイタリアでした。昔から若くして視力が弱い人はいましたが、当時、眼鏡といえば老眼用としてのみ使われていたそうです。しかし 13 世紀頃の西洋では、老眼で近くのものが見えにくくなるのは神が与えた苦痛だから耐えるべきだという考え方があり、また当時は上流階級しか文字の読み書きをしなかったことから、眼鏡の普及スピードはゆっくりとしたものでした。

そんな眼鏡が日本に伝わったのは 1551 年、宣教師フランシスコ・ザビエルが、当時の周防（現在の山口県）の国主・大内義隆に献上したものが最初でした。当時の眼鏡はまだ今のような形ではなく、手で持つか鼻に乗せるものが主流で、現在の耳にかけて固定する形になったのは 300 年近くあとの 16 世紀になってからです。その後も 19 世紀のフランスの富裕層は、眼鏡をかけると自分の欠点を認めていることになるからと眼鏡をかけることを拒んだそうで、眼鏡は長い間ネガティブなイメージをもったものでした。

眼鏡が今のようにファッションの一部として認められるようになったのは 20 世紀に入ってからです。デザイナー達によって眼鏡の新たなデザインが創作されるようになり、ジョン・レノンの丸眼鏡を筆頭に映画スターやアーティスト達が個性的で印象に残る眼鏡をファッションとしてかけるようになったことがきっかけで、眼鏡が物を見るためだけではなくファッションを担う重要なアクセサリとなりました。

そして 21 世紀に入り眼鏡はファッションからテクノロジーを担うものへと変化しています。視線の移動やまばたきの回数から集中力を可視化できる眼鏡「JINS MEME」や、音声を使ってインターネットができる「Google Glass」。3D 仮想物体を手と目で触って操作できる眼鏡型パソコンの「Microsoft HoloLens」など新たな眼鏡市場が登場してきました。

13 世紀からゆっくりと普及していった眼鏡ですが 20 世紀を機に進化スピードは急速にあがり、眼鏡で実像のないものも見ることができるようになりました。これからの眼鏡が見せてくれる世界に期待したいと思います。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、

skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。